

～ 目指せ！看護実践力アップ ～

OSCE

2025.11.6-11.12



車椅子移乗では、酸素チューブの長さ・位置に注意しながら、患者の苦痛が最小限になる方法を考えて介助を行っていました。

呼吸音や酸素飽和度の観察だけではなく、患者自身で痰が出せそうかアセスメントした上で、吸引の必要性を判断していました。

吸引後は、患者の希望を聞き、手元にティッシュを置く、痰を出しやすい姿勢に調整するなどの関わりも見られていました。

新卒者のうち希望者がOSCEを受講しました。模擬患者に対し、「車椅子への移乗・移送」「酸素療法」「口腔・鼻腔吸引」の演習を行いました。

検査室へ患者を迎える場面では、フルネームを名乗ってもらう、リストバンドを確認するなど、確実な患者確認を行っていました。

debriefing ~振り返り~

演習後は、評価者と患者役と共に振り返りをしました

自分の患者さんとの関わり方や技術を振り返る機会となり、できているところと強化したいところが明確になった。

患者役からフィードバックをもらい、こまめな声掛けが患者さんの安心感につながっていることを実感できた。

